

シェルドンの新しい文献

私がアーサー・フレデリック・シェルドンの研究を思い立ったのは、ガバナーを終えた 1997 年のことでした。ロータリーに職業奉仕の理念を提唱したのはシェルドンなので、職業奉仕を正しく理解するためにはシェルドンの考え方を知る必要があると考えたからです。

彼の文献は日本ではほとんど紹介されていませんでしたので、再三、エバンストンにある RI 本部の資料室に行って探しました。後に私が翻訳して紹介することになった、1910 年と 1911 年の全米ロータリークラブ連合会におけるスピーチ原稿や 1913 年と 1921 年の国際ロータリークラブ連合会におけるスピーチ原稿は、2001 年から 2002 年にかけて、この資料室で発見したものです。

その後東京のロータリー文庫で、1918 年の *The Rotarian* に掲載されている *The Symbolism of Service*(奉仕の図式)と 1921 年の *The Rotarian* に掲載されている *The Philosophy of Service*(奉仕の哲学)という二つの論文を発見したのを最後に、新しいシェルドンの文献を目にする機会はなくなりました。これらの一連の作業を通じて、シェルドンの思考の一部は理解できたものの、なぜこれだけ深くロータリアンの心に浸透して、影響を及ぼしたのかという疑問を晴らすことはできませんでした。

特に日本においては、戦前戦中にかけて RI を脱退しており、その間二宮尊徳の報恩講や石田梅岩や近江商人といった東洋思想で、職業奉仕が語り継がれてきたという特殊事情が、余計に職業奉仕を分かりにくくしていました。

その後、古いロータリーの文献を蒐集して、それをデジタル化してインターネット上で公開すると共に、アーカイブスとして保存し後世のロータリアンに伝えようという発想から、「源流の会」という組織を立ち上げ、文献蒐集やデジタル化の作業に忙殺される日々が続きました。

その作業の中で、アメリカの国会図書館の存在を知り、そこに膨大な文献が集められていて、蒐集されている文献の表題や著者が検索できることが分かりました。その結果、100 冊近いシェルドンの文献が存在することが分かりました。

さらに、アメリカの古本屋のインターネット上のネットワークの存在も分かったので、シェルドンの文献のリストを送って、その蒐集作業を再開して、現在までに 50 冊近く集めることができました。多くの発見がありました。

1902 年に発行された *Successful Selling* (商売に成功する方法) という本はシェルドン・ビジネス・スクールの教科書として発行された 12 巻 108 章からなる大作ですが、その第 6 巻には *He profits most who serves best* というフレーズがはっきりと書かれています。

1908 年のある日に、シカゴの散髪屋で思いついた言葉であるとか、ロータリーのために作った言葉であるとか言うのは真っ赤な嘘であり、シェルドン・ビジネス・スクールのカリキュラムの一節として使われていた言葉だということ分かりました。

1902 年から 1924 年にかけて、*The Science of Business*、*The Science of Successful Salesmanship*、*The Science of Business Building*、*The Art of Selling*、*Sheldon Course* 等数多くの本を出していますが、そのほとんどはビジネス・スクールの教科書です。

これらの文献を精読すると、これは単なる How to ものではなく、修正資本主義に基づいた未来を先取りした経営学の専門書であることが分かります。

ロータリーが創立された当時は、醜い資本家の欲望が労働者を搾取した時代でもありました。いかに安い賃金で労働者を雇うかが利潤を増やす鍵となり、そこが労働者の貧困、失業などの問題や、無秩序な自由競争による経済恐慌などの大きな社会矛盾を生む原因になりました。資本主義のもたらすこれらの社会矛盾や害悪を、資本主義の大枠の中で和らげたり克服するために考えられたのが修正資本主義です。

政府が公共事業などで失業者を減らしたり、法律で公害や悪い環境をもたらす資本の活動などを規制したり、従業員の福利厚生を図ったりして、これらの矛盾を和らげていこうという考え方です。

この考え方を発表したのがジョン・ケインズであり、資本主義のもたらす貧困、失業、恐慌などの社会矛盾や害悪は、資本主義制度そのものを変えなくても、ニューディール政策やマクロ政策の展開、政府による公共投資などによって企業家のマインドを改善することで、緩和し、克服できると述べています。その考え方のことを修正資本主義と呼んでいます。

ケインズがこの著書を書いたのは世界大恐慌後の 1935 年ですから、シェルドンはこの考え方を 30 年も先取りしていたことは驚異的なことです。

シェルドンの職業奉仕理念は、継続的な事業の発展を得るためには、自分の儲けを優先するのではなく自分の職業を通じて社会に貢献するという意図を持って事業を営む、すなわち会社経営を経営学の実践だととらえて、原理原則に基づいた企業経営をすべきだと考えました。さらに良好な労働環境を提供するのは資本家の責務であると考え、資本家が利益を独占するのではなく、従業員や取引に関係する人たちと適正に再配分することが継続的に利益を得る方法だと考えたのです。すなわち当時からすれば、来るべき修正資本主義を先取りした彼の考え方は極めて斬新なものであったと言えます。

この時代を先取りした経営学を実践することによって、ロータリー運動は飛躍的な発展を遂げたわけです。

つい1ヶ月ほど前に、兼ねてから気になっていた、1929年に出版された **Service and Conservation** (副題 奉仕の原則と保全の法則のためのマニュアル) という文献が、航空小包としてアメリカから届きました。

気になっていた理由は 1929 年という年号と **Conservation** という聞きなれない単語のせいでした。1929 年は世界大恐慌の年であると同時にシェルドンがロータリーを退会する前の年に当たります。**Conservation** (保全) という単語も世界大恐慌に関係するかも知れませんが、ひよっとするとシェルドンの退会もそれに関係するかも知れない考え、久しぶりに翻訳に挑戦することにしました。

翻訳の結果、シェルドンの退会の理由を突き止めるには至りませんでした。が、**Conservation** は明らかにその年に起こった世界大恐慌を予測するものでした。

シェルドンが神の存在をあえて無視して、単なる代名詞として使っているところは相変わらずですが、死後の世界についてかなりのページ数を費やして言及しているのは、体調についてかなり不安があったのかも知れませんが、良いことをすれば極楽に行けるというシェルドンらしからぬ発想も少し気にかかりました。

なおこの文献の翻訳は、「源流の会 アーカイブス」に収録していますのでご高覧ください。

2011 年 4 月 23 日